

令和6年 3月11日

足立区立弘道第一小学校
校長 鈴木 秀明 様

足立区立弘道第一小学校
開かれた学校づくり協議会

令和5年度 学校関係者評価書

1 自己評価書（学校経営計画・自己評価書）全般について

重点的な取組事項－1 児童一人一人の基礎・基本の学力の確実な定着
達成度△（あと一步で達成せず）

4月に実施した区学力調査結果では、通過率（目標値を上回る児童の割合）が国語で79.5%、算数でも同様の79.5%であった。平成30年度では70%未満であった数値が、ここ数年は80%台で安定していたが、今年度目標の80%まであと一步及ばない結果となった。「すっきりタイム」や「弘一タイム」、学年独自の学力向上の取組などは学力未定着部分の解消に役立っているが、学力調査での瞬間値ではなく、日常の学習指導の成果向上に期待したい。今年度開始した日常の単元末テストに力点を置いた日々の授業づくりや指導方法の工夫・改善を図るための「学力夕会」だけでなく、次年度は各学年の進捗状況を確認しながら積極的な改善にあたる新たな組織的な取組を尚一層お願いしたい。またタブレットによるAIドリルを活用した個別最適な学習も進められている一方で、子供の家庭学習の習慣が身に付いていないと感じている保護者割合が27.1%（分からないも含めると32%）となっており、学校ばかりでなく家庭からの学力向上に対する協力や意識の向上もまた求められるところである。

重点的な取組事項－2 「人権尊重」と「思いやりの心」の育成を通したいじめ防止
達成度◎（十分に達成）

学級集団における児童一人一人の状態を把握できるQU調査（学校生活における児童個々の意欲や満足感、および学級集団の状態を質問紙によって測定する調査）によると、「学級生活満足群」に所属する児童の割合が年間平均で55%であった。これは全国平均の43%を大きく上回っており、日頃の道徳教育の充実や教師の人権感覚を高める取組、いじめ対策委員会による取組、思いやりの心を育成するために学校全体で取り組んでいる「あいさつ運動」や「言葉遣い重点週間」などの成果であると考えられる。実際に子供たちへの言葉遣いに対するアンケートでは、「相手や場面に合わせた言葉を遣うことができましたか。」の問いに対する肯定的回答は98%と大変に高いものであった。一方で過去最多を記録している不登校問題（日本全国で約30万人、前年度比22.1%増加）は、登校しぶりや教室での生活が困難な児童の存在などで本校でも大きな課題となっている。東京都教育ビジョンに掲げられた「誰一人取り残さない教育」の実現に向け、家庭との信頼関係に基づいた連携、そして学校関係諸機関との連携においても、学校が果たす役割は大きい。引き続き児童の心に寄り添った心の教育の充実と指導に努めていただきたい。

重点的な取組事項－3 児童一人一人の体力の向上

達成度△（達成せず）

昨年度に続き重点的な取組事項の中では大きな継続課題となった。5月に実施した体力状況調査では、8種目のテスト中、全国平均を下回る5種目を今年度は4種目に削減することを目標としていたが、残念ながら昨年度と同様の結果であった。全ての学年の男女で全国平均に届かなかった「握力」「20mシャトルラン」「ソフトボール投げ」の3種目について2種目は改善が見られたが、新たな苦手種目として「長座体前屈」「立ち幅とび」が浮上し、「20mシャトルラン」は2年連続で全学年男女が全国平均に届かなかった。また低学年を中心に体力低下の傾向が顕著に見られるなど、3年間に及ぶコロナ禍での影響が少なからずあったものと考えられる。学校でも体育の授業だけではなく外遊びの推奨など、遊びの中での体力向上に取り組んでもらっているが、改善にはある程度の長いスパンが必要とされるであろう。目標をあまり高く掲げ過ぎることのないよう達成可能な範囲で設定することによって、子供たちに「できる経験」と「やり遂げる自信」をスモールステップで与えながら体力向上に取り組んでいただきたい。

2 学校から提示された「課題」や「保護者・地域への期待」について

年度当初に示された3つの重点的な取組事項に対する前年度の課題は、それぞれに対する改善に向けた取組により、若干の差異はあるもののある程度の成果を上げることができたと考える。学校評価アンケートに寄せられた保護者意見からは、全体の8割から9割に及ぶ肯定的な回答が寄せられており、学習面や生活面において子供たちの落ち着いた学校生活の様子がうかがえる。今後も引き続き、弘道第一小学校の校風である「穏やかであたたかな雰囲気」を継続できるよう願う。またアフターコロナの課題は学校だけでなく、保護者や地域も含めた社会全体の課題でもある。これらの課題については学校だけということではなく、保護者・地域も尚一層の協働を図りながら改善に向けて取り組んでいきたい。

平成25年9月から始まった廃品回収の収益金による漢字検定全員受検は定着し、今年度も2～6年生全員に家庭の負担無く実施でき、開かれた学校づくり協議会がPTAと協力し、地域の皆様と取り組んできた成果である。開かれた学校づくり協議会としては、保護者、地域の皆様と連携を深めて廃品回収に取り組み、学校との協力のもと、この検定受検の取組みを今後も是非、継続、発展させていきたい。

3 その他

アフターコロナにおいてもコロナ禍での学びを生かしながら、「PTA夏祭り」「近隣町会・自治会との夏休みラジオ体操」「弘一落語会」「夏・冬のカレーランチ会」など、子供たちのために様々なイベントを実現することができた。また時事的な問題として、「SDGs」に関する家庭教育講演会を開催し、子供たち・教職員・保護者・地域の三者が一堂に会して学ぶ貴重な機会を設けることもできた。これからも開かれた学校づくり協議会は、令和7年度に迎える開校60周年に向けて、先生方の日々の教育活動と上手く連携しながら様々な取組を実現させ、弘道第一小学校の子供たちのためにその活動を充実、発展させていきたい。